平成 30 年度（2018 年度）

京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士（後期）課程学生募集要項

【目次】

第１　募集人員 …… 1

第２　出願資格 …… 1

第３　出願期間 …… 2

第４　出願手続 …… 3

第５　出願書類 …… 5

第６　入学者選抜試験 …… 7

第７　合格発表 …… 11

第８　入学手続 …… 11

第９　個人情報の取り扱いについて …… 12

第 10　音楽研究科博士（後期）課程の概要 …… 13

【問合せ先】

京都市立芸術大学　連携推進課　入試担当

〒610-1197　京都市西京区大枝沓掛町 13-6

TEL：075-334-2238

FAX：075-334-2281

―大学院音楽研究科博士（後期）課程の教育・研究目的―

音楽研究科博士（後期）課程は，高度で専門的な音楽芸術の研究を行い，世界的に活躍しうる音楽家，音楽学者を育成することを目的とします。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

音楽研究科博士（後期）課程は，以下のような人材を求めています。

1　音楽芸術の専門的で極めて高度な研究に必要な技術と知識，強い研究意欲を持つ人材
2　個性と芸術的創造力にあふれる人材

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽研究科博士（後期）課程は，次の力を身につけることを目指し，カリキュラムを編成し，実施します。

1　修士課程において獲得した優れた想像力，表現力，構想力，思考力，音楽的感性を踏まえた余人をもって代替不可能な創造力
2　解決すべき課題を自ら創出し，自律的にその解決への道筋を整えることのできる能力
3　専門分野にとどまらず他分野にまたがる広範での深い知見と問題意識
4　社会との双方向的コミュニケーションをなしうるスキル

◆ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

音楽研究科博士（後期）課程は，修了時までに達成すべき目標を以下のとおりとします。

1　実演，創作，学術研究の各分野における，専門的音楽人として相応しい音楽的もしくは学術的に極めて優れた想像力，表現力，構想力，思考力の獲得
2　他分野に対しても幅広く深い知見と問題意識を有し，それらについて社会と双方向的に創造的コミュニケーションを図り，グローバルな視野をもって芸術文化の発展に深く寄与できる能力の修得

第１　募集人員

（標準修業年限 3 年）

専攻	研究領域	募集人員
音楽	作曲・指揮 器楽 声楽 音楽学	5 名 ＊上記募集人員には，社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜（若干名）を含みます。

第２　出願資格

１　一般選抜　(1)～(8)のいずれかに該当する必要があります。

(1)　学校教育法第 104 条第 1 項の規定により修士の学位または専門職学位を有する者及び平成 30 年 3 月までに取得見込みの者

(2)　外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者

(3)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者

(4)　我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者

(5)　国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者

(6)　外国の学校，第 4 号の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(7)　文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）

(8)　本大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，平成 30 年 3 月 31 日までに 24 歳に達する者

注　出願資格(8)の資格認定を希望する者は，出願資格認定審査等の手続を要するため，「３　資格認定希望者提出書類」を参照し，必要な書類を期限までに提出してください。

２　社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜

特別選抜とは，大学院における専門教育の開放と交流を目的とし，選抜試験のうち語学試験を免除するもので，一般選抜の出願資格のいずれかに該当する外国人留学生及び一般選抜の出願資格のいずれかに加えて以下の(1)～(3)のいずれかに該当する社会人を対象とします。

(1)　出願時において各種の企業，研究機関又は教育機関に正規職員として勤務し，入学後もその身分を有し，所属長から推薦を受けた者

(2)　出願しようとする研究領域に関連した職種に 3 年以上の勤務経験を有すると本大学院が認めた者

(3)　出願しようとする研究領域に関連した活動を 3 年以上行っていると本大学院が認めた者

注　特別選抜による受験を希望する者は，出願資格認定審査等の手続を要するため，「３　資格認定希望者提出書類」を参照し，必要な書類を期限までに提出してください。

３　資格認定希望者提出書類

出願資格(8)の資格認定を希望する者及び特別選抜による受験を希望する者は，出願資格認定審査等の手続を要するため，平成 29 年 12 月 15 日（金）〔必着〕までに連携推進課入試担当へ以下の書類（A4 縦長・横書き）を郵送すること（持参不可）。封筒表面に「音楽研究科特別選抜希望」と朱書してください。結果は平成 30 年 1 月 17 日（水）までにお知らせします。

［提出書類］

・履歴書：高等学校卒業以降の学歴及び職歴を記載したもの（様式不問）
・業績書：著書，論文，作品，演奏会出演歴等の業績を記載したもの（様式不問）
・所属長の推薦書（社会人で特別選抜出願資格⑴に該当する者のみ）
・日本語能力証明書又は日本語教育修了証明書（外国人留学生のみ）
　公的機関又は学習した機関による証明書で，学習期間が記載されたもの

第３　出願期間

平成 30 年（2018 年）1 月 22 日（月）から 1 月 25 日（木）まで（期間内の消印を有効とします。）

第４　出願手続

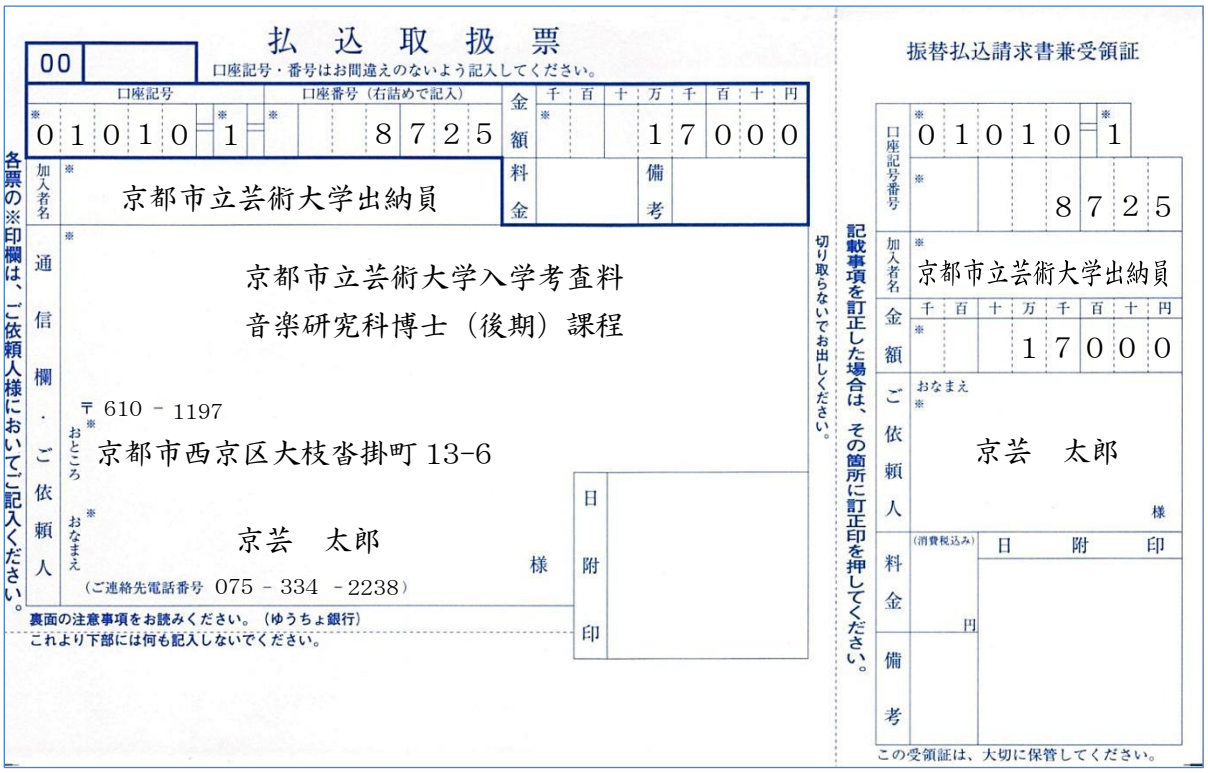
１　入学考査料の払込み

郵便局窓口で「払込取扱票」により，入学考査料 17,000 円を払い込んでください。払込み機能付きのＡＴＭからの払込みも可能です。払込みには別途手数料がかかります。

なお，入学願書提出後，入学考査料は一切返還しません。

払込取扱票への記入事項	
口座記号番号	01010-1-8725
金　　額	17000
加 入 者 名	京都市立芸術大学出納員
通　　信　　欄	京都市立芸術大学入学考査料　音楽研究科博士（後期）課程
ご 依 頼 人	志願者本人の住所・氏名・連絡先電話番号

＜記入例＞



2　出願書類の提出

「第５　出願書類」を「第３　出願期間」内に必ず簡易書留・速達で郵送してください。（直接大学に持参されても受け付けません。）なお，封筒の表には必ず「音楽研究科博士（後期）課程入学願書在中」と朱書きしてください。

【郵送先】
〒610-1197　京都市西京区大枝沓掛町 13-6
京都市立芸術大学連携推進課入試担当

3　受験票

出願書類を完備し，上記の出願手続を行った者には，受験番号を決定のうえ受験票を志願者宛てに送付します。受験票が平成 30 年 2 月 22 日（木）までに到着しない場合は，連携推進課入試担当まで電話で問い合わせてください。

4　注意事項

出願は一つの研究領域に限ります。なお，器楽研究領域でフルート及びホルン以外の管楽器での受験を希望する場合は，出願前に必ず連携推進課入試担当に問い合わせてください。

第５　出願書類

１　入学願書及び履歴書・業績書

本要項内の「入学願書」及び「履歴書・業績書」を A4 サイズの用紙にプリントアウトのうえ使用してください。記入する氏名は戸籍名と同一のこと。住民票が作成される外国籍の方は住民票の写しに記載されている氏名と同一のこと。その他の提出書類についても同様とします。

２　各研究領域において指定する書類

領域	提出書類	内容についての条件等
作曲・指揮	修士論文 （修士論文を書いていない志願者はそれに代わる論文）	・いずれの場合も日本語（8,000 字以上）又は英語（3,000 語以上）の論文とします。英語による論文の場合は，日本語（4,000 字以上）の全訳又は要約を添付すること。 ・その他に参考資料（論文等）がある場合は，同時に提出してください。
	博士論文に関する研究計画書	・日本語（2,000 字以上）又は英語（800 語以上）によるものとします。英語による場合は，日本語訳を添付すること。 ・Ａ４縦長・横書きで，表紙に氏名と研究領域を明記すること。
	作曲・指揮に関する研究計画書	・日本語（800 字以上）又は英語（300 語以上）によるものとします。英語による場合は，日本語訳を添付すること。 ・Ａ４縦長・横書きで，表紙に氏名と研究領域を明記すること。
	実技試験で使用する資料	詳細は「第６　入学者選抜試験」の「３　試験内容」（8 ページ）を参照してください。
器楽及び声楽	実技及び博士論文に関する研究計画書	・日本語又は英語によるものとします。（字数制限はありません。）英語による場合は，日本語訳を添付すること。 ・Ａ４縦長・横書きで，表紙に氏名と研究領域を明記すること。 ・論文（修士論文を含む）等がある場合は，同時に提出してください。英語による場合は，日本語訳を添付すること。
	実技試験で使用する資料	詳細は「第６　入学者選抜試験」の「３　試験内容」（9 ページ）を参照してください。
音楽学	修士論文 （修士論文を書いていない志願者はそれに代わる論文）	・いずれの場合も日本語（8,000 字以上）又は英語（3,000 語以上）の論文とします。それら以外の言語による論文の場合は，日本語（4,000 字以上）又は英語（1,500 語以上）の全訳若しくは要約を添付すること。 ・その他に参考資料（論文等）がある場合は，同時に提出してください。
	博士論文に関する研究計画書	・日本語（2,000 字以上）又は英語（800 語以上）によるものとします。 ・Ａ４縦長・横書きで，表紙に氏名と研究領域を明記すること。

3　修士（博士前期）課程修了証明書又は修了見込証明書

本学修士課程修了者及び修了見込者は提出する必要はありません。

4　写真２枚

出願前 3 ヶ月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもので，大きさは縦 4cm×横 3cm とします。なお，2 枚とも必ず裏面に志願者の氏名を記入してください。

5　受験票返送用封筒

長 3 サイズの封筒の表に志願者の郵便番号，住所及び氏名を明記し，672 円分の切手（簡易書留・速達）を貼付してください。

6　郵便振替払込請求書兼受領証のコピー

入学考査料の払込みに係る受領証のコピーを同封してください。

7　パスポートの写し（外国人留学生のみ）

外国人留学生（本学本科留学生を含む）は，パスポート（顔写真のあるページ）の写しを提出してください。

8　注意事項

(1)　各種証明書等と現在の姓が異なる場合は，改姓の事実が確認できる証明書等（戸籍抄本や運転免許証の写し等）を添付すること。

(2)　英語以外の外国語で記載された書類を提出する場合は，日本語訳を添付すること。出願者が訳したものでも構いません。

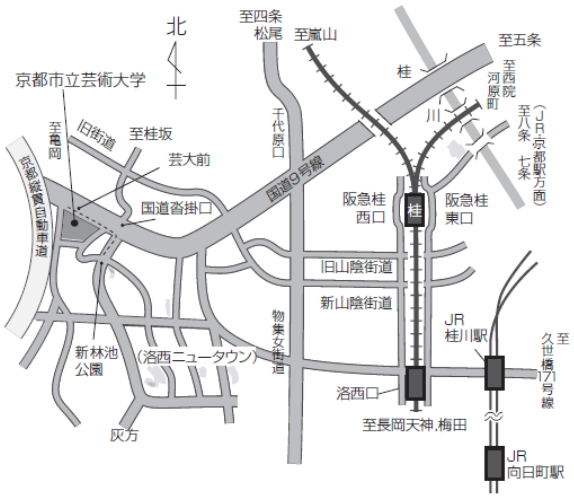
(3)　官公庁その他会社等に在職中又は現在他大学の大学院に在籍中の者は，出願前に勤務先又は在籍する大学院の学長の受験許可が必要な場合がありますので，勤務先又は在籍する大学院の規程等を十分に確認のうえ出願してください。

第６　入学者選抜試験

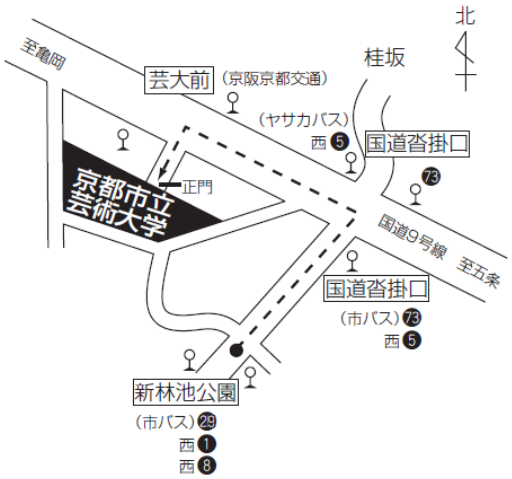
１　試験会場

京都市立芸術大学大学院音楽研究科（京都市西京区大枝沓掛町 13-6）

◆試験会場への略図



◆試験会場周辺略図



◆試験会場への交通機関

平成 29 年 11 月 1 日現在

主要な駅	のりば	バスの種類	乗車時間	最寄りのバス停	バス停から大学までの所要時間
京都駅	C2 のりば	京阪京都交通バス（2・14・28A 系統）	約 45 分	芸大前	徒歩すぐ
	C5 のりば	市バス（73 系統）	約 45 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
阪急烏丸駅	四条烏丸 E のりば	市バス（29 系統）	約 50 分	新林池公園	徒歩約 20 分
阪急桂駅	桂駅東口 ②のりば	京阪京都交通バス（1・2・13・14・25・28A 系統）	約 20 分	芸大前	徒歩すぐ
	桂駅西口	市バス（西 1・西 8 系統）	西 1 は約 20 分 西 8 は約 25 分	新林池公園	徒歩約 20 分
		市バス（西 5 系統）	約 20 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
JR 桂川駅（阪急洛西口駅経由）		京阪京都交通バス（11A 系統）	約 15 分	芸大前	徒歩すぐ
JR 向日町駅（JR 桂川駅・阪急洛西口駅経由）		ヤサカバス（1 号系統）	約 25 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分

【注意】

1　交通機関の利用については，路線及びダイヤの変更に留意するとともに，周辺の交通事情等を事前に把握し，試験当日，指定の時刻に遅れることのないよう注意してください。

2　バスは京阪京都交通の利用が比較的便利です。

2　試験日程

月　　日	科　　目	時　間（予　定）
3月1日（木）	語学試験	10:00～11:30
	口述試験（音楽学領域）	午後
3月2日（金）	実技試験（作曲・指揮領域のうち作曲，器楽領域及び声楽領域）	10:00～
	口述試験（作曲・指揮領域のうち作曲，器楽領域及び声楽領域）	実技試験終了後
3月4日（日）	実技試験（作曲・指揮領域のうち指揮）	10:00～
	口述試験（作曲・指揮領域のうち指揮）	実技試験終了後

注1　受験の詳細については，事前に受験票とともに郵送によりお知らせします。

2　語学試験については，30 分以上遅刻した場合は受験資格を失います。口述試験・実技試験については，原則として遅刻は認めません。

3　課せられた試験のうち一つでも受験しなかった場合は失格となり，以降の試験の受験資格を失います。

4　入学試験当日に受験できなかった場合，追試験等の特別措置及び入学考査料の返還は行いません。

5　学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ，麻しん，水痘等）に罹患し治癒していない場合又は罹患した疑いがある場合は，他の受験生や監督者等への伝染の恐れがありますので，原則として受験をご遠慮願います。ただし，症状により医師が伝染の恐れがないと認めた場合は，この限りではありません。

3　試験内容

各研究領域において課す試験の内容は次のとおりです。ただし，社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜資格認定者については，語学試験を課しません。

(1)　作曲・指揮領域

科　目	内　　容
語学試験	英語，ドイツ語，フランス語及びイタリア語の 4 か国語の中から 1 か国語を選択してください。（辞書の持込可。ただし電子辞書の場合は通信機能の無いものに限ります。）
口述試験	提出論文等及び研究計画書に関する口頭試問
実技試験	作曲 出願時に主要作品を提出すること。その際に提出作品の演奏ＣＤ・ＤＶＤ等を添えてもかまいません。（提出物は返却しませんので，作品はコピーを提出してください。） 提出する作品数は限定しません。また，修士作品を提出してもかまいません。 提出された作品に対する口頭試問を行います。 指揮 バロック，古典派，ロマン派，近代，現代（1945 年以降に作曲された作品で，楽譜が出版されたもの）のそれぞれを含む 8 曲以上の管弦楽のレパートリーの一覧表を出願時に提出し，そのうち当日指定された 2 曲を指揮すること。（演奏は本学で準備するピアノ 2 台によるものとします。） また，レパートリー一覧表について口頭試問を行います。 ＊本学の作曲・指揮領域（指揮）においては，多岐の分野に渡り研究を行うことができますが，入学試験においては，管弦楽のレパートリーにより実施します。

(2) 器楽領域

科　目	内　　容
語学試験	英語，ドイツ語，フランス語及びイタリア語の 4 か国語の中から 1 か国語を選択してください。(辞書の持込可。ただし電子辞書の場合は通信機能の無いものに限ります。)
口述試験	研究計画書等に関する口頭試問
実技試験	ピアノ バロック，古典派，ロマン派，近代，現代（1945 年以降に作曲された作品で，楽譜が出版されたもの)，エチュード（高度な技術を要するもの）のそれぞれを含む 1 時間程度のプログラムによるリサイタルを準備すること。 プログラムは出願時に提出すること。 ＊都合によりプログラムの一部を省略させることがあります。 弦楽 1 時間程度の自由構成プログラムによるリサイタルを準備すること。 リサイタルは，ヴァイオリン又はチェロによる演奏であること。 プログラムは出願時に提出すること。伴奏が必要な場合はピアノによるものとし，ピアニストを同伴すること。 ＊都合によりプログラムの一部を省略させることがあります。 管・打楽 1 時間程度の自由構成プログラムによるリサイタルを準備すること。 ただし，打楽器については任意の鍵盤打楽器のために編曲された J.S.Bach の作品を含むこと。 プログラムは出願時に提出すること。伴奏が必要な場合はピアノによるものとし，ピアニストを同伴すること。 ＊都合によりプログラムの一部を省略させることがあります。

(3) 声楽領域

科　目	内　　容
語学試験	英語，ドイツ語，フランス語及びイタリア語の 4 か国語の中から 1 か国語を選択してください。(辞書の持込可。ただし電子辞書の場合は通信機能の無いものに限ります。)
口述試験	研究計画書等に関する口頭試問
実技試験	1 時間程度の自由構成プログラムによるリサイタルを準備すること。 リサイタルは，2 か国語以上の原語による演奏であること。 プログラムは出願時に提出し，伴奏者は同伴すること。 ＊都合によりプログラムの一部を省略させることがあります。

(4) 音楽学領域

科　目	内　　容
語学試験	英語，ドイツ語，フランス語及びイタリア語の 4 か国語の中から 1 か国語を選択してください。(辞書の持込可。ただし電子辞書の場合は通信機能の無いものに限ります。)
口述試験	提出論文等及び研究計画書等に関する口頭試問

【参考】過去 3 年間の語学の試験問題は，祝日を除く月曜日から金曜日の午前 9 時から午後 5 時までの間に限り，連携推進課入試担当事務室において閲覧することができます。また，過去 1 年間の語学の試験問題は，著作権法上の関係により掲載できないものを除いて，本学ホームページ（http://www.kcua.ac.jp/）でも掲載しています。なお，電話・文書等による照会には一切応じません。

4　選抜方法

入学者の選抜は，上記試験内容の成績を総合して行います。

第７　合格発表

平成 30 年（2018 年）3 月 7 日（水）午後 3 時（予定）に本学正門前において掲示し，合格者には文書で通知します。なお，合格発表日の午後 4 時（予定）から約 1 週間，本学ホームページ（http://www.kcua.ac.jp/）に合格者の受験番号を掲載します。ただし，本学内における掲示による発表及び合格通知書の発送をもって正式な合格発表とします。電話による問合せには一切応じません。

注　本学ホームページへの合格者の受験番号掲載は，情報提供の一環として行うものであり，その安全性を保障するものではありません。

第８　入学手続

合格者は，次のとおり入学手続を行ってください。詳細は，合格通知書とともに送付します。

１　手続期間

平成 30 年（2018 年）3 月中旬

２　手続場所

京都市立芸術大学連携推進課入試担当事務室

３　入学料の納付

市内出身者　282,000 円

市外出身者　482,000 円

注　市内出身者とは，入学前年の 4 月 1 日以前から引き続き京都市内に居住し，住民票の写しにより証明される者のことです。

４　誓約書の提出（正・副保証人）

５　入学料以外の納付金

(1)　学生教育研究災害傷害保険料　　2,600 円（3 年間分）

(2)　学研災付帯賠償責任保険料　　1,020 円（3 年間分）

(3)　音楽教育後援会費　　50,000 円（3 年間分）※留学生は払込不要です。

(4)　真声会（同窓会）入会金　　15,000 円 ※本学出身者及び留学生は払込不要です。

〔参考〕授業料

535,800 円（年額） ※前期，後期に分割して納入することができます。

注　上記の入学料及び授業料は平成 29 年度（2017 年度）入学者に適用されたものであり，改定があった場合は，合格者に通知します。

第９　個人情報の取り扱いについて

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（以下「個人情報保護法」という。）に基づき本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報の利用については，入学者選抜に係わる業務のほか，次のとおりです。

１　利用目的について

(1)　合格者の住所・氏名等の個人情報を入学手続に係わる業務で利用します。

(2)　入学手続者の住所・氏名等の個人情報を入学後の学籍管理等の修学に係わる業務並びに健康診断等の保健管理に係わる業務で利用します。

(3)　入学手続者の住所・氏名等の個人情報を入学料並びに授業料徴収等の納付金管理に係わる業務で利用します。

(4)　入学者選抜で取得した成績等の個人情報を１年次における授業料減免及び奨学生選考等の修学支援に係わる業務で利用します。

(5)　入学者選抜で取得した成績等の個人情報を個人が特定できない形で統計処理等の付随する業務及び入学案内業務並びに本学における入学者選抜に関する調査研究で利用します。

２　第三者への個人情報の提供について

本学が取得した個人情報は，「個人情報保護法」第９条に規定されている場合を除き，出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

ただし，次の場合必要最低限の情報を提供することがあります。

(1)　上記 1.(1)～(5)の個人情報を取り扱う業務を，個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結したうえで，外部の事業者に委託する場合

(2)　国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うために，合格及び入学手続等に関する個人情報（氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限る）を独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達する場合

(3)　本学の教育後援会，同窓会に情報提供する場合（合格者のみ）

第 10　音楽研究科博士（後期）課程の概要

1　音楽研究科博士（後期）課程について

(1)　専門的研究が出会い，深化する場としての博士（後期）課程

学部における基礎教育並びに大学院修士課程等において積まれてきた専門的技能及び専門的学識の研鑽を踏まえた能力の持ち主が，広領域的アプローチを視野に入れて多様な展開を図りつつ，自己の専門領域の方法理論を深化させる課程として位置づけるものです。そのため，専門研究を担う「作曲・指揮」「器楽」「声楽」「音楽学」の 4 領域を音楽専攻として単一組織にまとめています。

(2)　地域が要請する博士（後期）課程

本学は開学以来，半世紀にわたって，京都のみならず，関西，西日本地区の音楽教育の中心的拠点として機能してきました。京都及び関西地区には 10 校を超える音楽系大学がありますが，理論・実技系両方の博士（後期）課程を設置しているのは，数校のみです。公立大学として，本学に課せられた役割からしても，本学の修了生のみならず，他大学の修了生にも高度な研究の場を提供します。

(3)　国際的な音楽教育・研究の場としての博士（後期）課程

本学はドイツのフライブルク音楽大学及びブレーメン芸術大学，オーストリアのウィーン国立音楽大学，イギリスの英国王立音楽大学，韓国の檀国大学校音楽大学，台湾の国立台北芸術大学音楽学院並びにノルウェーのベルゲン大学グリーグ音楽アカデミーと国際交流協定を結んでいます。博士（後期）課程は最高水準での音楽研究のための国際交流の場を提供します。この目的のため，博士（後期）課程の定員内で外国人留学生に対する特別選抜を実施し，受入れに対する配慮を行います。

(4)　社会人の再教育の場としての博士（後期）課程

すでに社会人として演奏活動や研究活動に活躍している専門家に，先端的な研究成果や情報，芸術的研鑽の場を提供し，社会人の再教育の場としての役割を担います。そのため，特別選抜を実施することにより，博士（後期）課程の定員内で社会人を受け入れます。また，音楽学部や音楽研究科修士課程を卒業・修了後，海外に留学し，豊かな経験を積んだ優秀な人材も歓迎します。

2　履修概要

(1)　履修課程

<table>
<tr><th rowspan="2">履修区分</th><th colspan="2" rowspan="2">授　業　科　目</th><th colspan="5">履　修　年　次</th><th colspan="3">履　修　単　位　数</th></tr>
<tr><th colspan="2">1 年次</th><th colspan="2">2 年次</th><th>3 年次</th><th>小計</th><th>中計</th><th>合計</th></tr>
<tr><td rowspan="3">必修科目</td><td colspan="2">研究領域研究指導</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="8">12</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別総合演習</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td rowspan="2">4</td></tr>
<tr><td colspan="2">音楽学演習</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択必修科目</td><td rowspan="4">研究領域</td><td>作曲・指揮研究</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>8</td><td rowspan="4">8</td></tr>
<tr><td>器楽研究</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>8</td></tr>
<tr><td>声楽研究</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>8</td></tr>
<tr><td>音楽学研究</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>8</td></tr>
</table>

(2) 履修方法及び修了要件

必修科目のうち，特別総合演習及び音楽学演習 2 科目計 4 単位，選択科目から各領域研究 8 単位以上を修得し，研究領域研究指導により博士論文（ただし，研究領域により，研究作品の発表又は研究演奏を行います。）を作成・提出して，審査及び最終試験に合格すること。

(3) 取得学位

作曲・指揮領域
器楽領域　　博士（音楽）　Doctor of Musical Arts（DMA）
声楽領域

音楽学領域……博士（音楽学）Doctor of Philosophy in Musicology（PhD）

3 講義等の内容

(1) 研究領域研究指導（全研究領域対象）

博士論文作成のための指導，並びに博士学位審査のための研究作品制作又は研究演奏の指導。ただし，音楽学研究領域においては，博士論文作成のみとすることができます。

(2) 特別総合演習（全研究領域対象）

各研究領域における理論的研究を専門的に深化させるとともに,個々の研究領域の専門性を超えて,より広範かつ総合的な視点から研究の展開を図ります。そのために，他研究領域の教員や学生との共同討議を通して専門領域以外の知見や理論的特質を探求し,それらを専門領域の研究に反映させます。

(3) 音楽学演習（全研究領域対象）

音楽の理論的・実践的研究の基礎となる西洋音楽史・音楽心理学・音響心理学・民族音楽学・現代音楽論・ポピュラー音楽論等についての考察を深め，専門領域の研究への応用を図るとともに，博士論文のテーマ決定に資します。

(4) 領域研究

職名については平成 29 年 11 月 1 日現在

※印は，平成 31 年 3 月末退職予定の教員を示す。

研究領域・担当教員	研　究　指　導　内　容
作曲・指揮研究	作曲作品の実作又は指揮の実技と理論の研究を通して，高度な作曲技法又は指揮法の習得を目指します。そのために，作曲と指揮の密接な関係に鑑みて，双方向からの実践的・理論的研究を行うとともに，それらをとりまく歴史的，社会的，文化的状況についても理解を深め，新たな音楽の創造を図ります。
岡田加津子　准教授	作曲の作品制作及び理論の指導
中村　典子　准教授	作曲の作品制作及び理論の指導
酒井　健治　講師(着任予定)	作曲の作品制作及び理論の指導
下野　竜也　教　授	指揮法及びレパートリー（管弦楽・歌劇・合唱）形成の指導
器楽研究	器楽演奏の実技と理論の研究を通して，高度な器楽演奏の修得を目標とします。そのため，演奏作品及び演奏法に関する実践的・理論的研究を行うとともに，それらをとりまく歴史的，社会的，文化的状況についても理解を深め，新たな器楽演奏の創造を図ります。

研究領域・担当教員	研　究　指　導　内　容
阿部　裕之　教　授	ピアノの演奏法一般並びに近代フランス音楽を中心とするピアノ作品の解釈の指導
砂原　　悟　教　授	ピアノの演奏法一般並びにドイツロマン主義を中心とするピアノ作品の解釈の指導
上野　　真　教　授	ピアノの演奏法一般並びに近現代ピアノ作品を含む解釈の指導
野原みどり　准教授	ピアノ演奏における作品解釈とレパートリー形成並びに機能的な奏法の指導
四方　恭子　教　授	ヴァイオリン演奏法一般，弦楽作品解釈及び室内楽一般の指導
豊嶋　泰嗣　准教授	ヴァイオリン演奏法一般，弦楽作品解釈及び室内楽一般の指導
向山佳絵子 准教授(着任予定)	チェロ演奏法一般，弦楽作品解釈及び室内楽一般の指導
山本　　毅　教　授	打楽器演奏法一般並びに近代・現代の管打楽作品解釈の指導
大嶋　義実　教　授	木管楽器（フルート）演奏法並びに管打楽作品理論研究，バロックから近代に至る管打楽作品解釈の指導
村上　　哲　准教授	金管楽器（ホルン）演奏法一般並びにオーケストラ，吹奏楽，室内楽作品の解釈と指導
声楽研究	声楽演奏の実技と理論の研究を通して，高度な声楽演奏の修得を目標とします。そのため，演奏作品及び演奏法に関する実践的・理論的研究を行うとともに，それらをとりまく歴史的，社会的，文化的状況についても理解を深め，新たな声楽演奏の創造を図ります。
小濱　妙美　教　授	声楽演奏一般並びに声楽楽曲解釈とレパートリー形成の指導
北村　敏則　准教授	声楽演奏一般並びに声楽楽曲解釈とレパートリー形成の指導
音楽学研究	音楽学諸分野の先端的研究の成果をふまえた，高度な音楽学研究の達成を目標とします。そのため，音楽美学・音楽史学・音楽社会学・音楽心理学・音響心理学・民族音楽学に関する理論的研究を行うとともに，学際的・分野横断的な研究を積極的に推進し，新たな音楽学研究の創造を図ります。
※柿沼　敏江　教　授	西洋音楽史・現代音楽論・サウンドアート論及びその関連領域について，現代的・分野横断的観点に基づく音楽の表現・媒体の研究方法に関する指導
山田　陽一　教　授	民族音楽学・音響人類学・ポピュラー音楽論の観点から，世界諸民族の音楽の社会的・文化的意味の考察及び音楽民族誌記述の手法に関する研究の指導
津崎　　実　教　授	音楽心理学・音響心理学・音響環境論・感性情報処理の観点から，高度な専門的知識や実験計画法・統計分析法などの研究方法論の指導
池上健一郎　講　師	西洋音楽史の領域について，様式研究，資料研究，音楽理論，音楽文化論等の観点から，高度な専門的知識を提供するとともに，個々の学生の関心に即した研究方法の指導

平成 30 年度　京都市立芸術大学大学院

音楽研究科 博士（後期）課程

入　学　願　書

※受験番号は記入しないこと。

受験番号	番

出願の種類 （いずれかを○で囲むこと。）	一般選抜　　社会人特別選抜　　外国人留学生特別選抜
志望研究領域 （いずれかを○で囲むこと。）	作曲・指揮（ 作曲　 指揮 ） 器　　楽（楽器：　　） 声　　楽（声種：　　） 音 楽 学 研究分野：音楽心理学　音響心理学　音響環境論　感性情報処理 西洋音楽史　ポピュラー音楽論　民族音楽学　音響人類学 現代音楽論　サウンドアート論
フリガナ	男・女
氏　　名	
生年月日	昭和・平成・西暦　　年　　月　　日 平成 30 年 4 月 1 日現在　満年齢　　歳
現住所	〒　　－
電話番号	自　　宅：　　－　　－ 携　　帯：　　－　　－ E-mail：
国　　籍 （外国人留学生特別選抜志願者のみ記入すること。）	
語学受験科目 （一般選抜志願者のみ１か国語を○で囲むこと。）	英　　語　　ドイツ語　　フランス語　　イタリア語

履　歴　書　・　業　績　書

年	月	学 歴 ・ 職 歴 ・ 業 績
（学歴）高等学校卒業から記入すること。		
（職歴）		
（主な業績）		

注　用紙が不足する場合は，別紙（Ａ４縦長・横書き）に記入すること。

以上のとおり相違ありません。

年　　月　　日　　氏名　　㊞